HIV/エイズ国内啓発キャンペーンのテーマ策定プロセスについて

公益財団法人エイズ予防財団理事　宮田一雄

エイズ予防財団は 2011 年４月、公益財団法人として新たなスタートを切り、厚生労働省の外郭団体としての従来のあり方を脱皮することになりました。公益法人としての独立性を保つ一方で、厚労省との協調関係を維持しつつ、わが国のエイズ対策に取り組む。そのような使命を担うにはどうしたらいいのか。外から見るとあまり目立たないかもしれませんが、公益財団法人化の準備を開始した 3 年ほど前から、そうした課題への対応を模索する努力も続けています。簡単にその動きを紹介しておきましょう。

＜2009 年 11 月＞
名古屋で開かれた第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会で「エイズ予防財団はどう変わるのか」という討論会を開催。HIV/エイズ分野で行政と NGO とをつなぐ機能に対するニーズの存在が把握された。
＜2010 年 5～7 月＞
世界エイズデー啓発キャンペーンのテーマ策定プロセスを模索。5 月にテーマのあり方をさぐる公開フォーラムを 2 回開催。6～7 月には NPO メンバーとエイズ予防財団、厚労省担当者によるワーキングループでテーマ候補 2 案を作成し、厚労省に提出。
＜2011 年 4 月＞
公益財団法人エイズ予防財団発足。
＜2011 年 5～7 月＞
啓発キャンペーンテーマの策定プロセスに API-Net による意見募集も加えて候補案を作成し、エイズ予防財団から厚労省に提案。フォーラムは東京と大阪で開催。
＜2011 年 9～12 月＞
コミュニティ主導の啓発キャンペーンとして、HIV/エイズ分野の国内 NPO/NGO と協力してコミュニティアクション 2011 を企画。『エイズとわたし　つながるコミュニティ』というテーマのもとでキャンペーンを実施。
＜2012 年 4 月～＞
世界エイズデー国内啓発キャンペーンのテーマ策定プロセスが、厚労省から委託されるエイズ対策事業のひとつとして位置づけられる。

公開の討論会で組織のあり方を検討し、キャンペーンテーマの策定プロセスに現場の意見が反映される方策をさぐりつつ、その経験を踏まえて参加型情報提供キャンペーンを実施する。エイズ予防財団にとってそれは、一段ずつ階段を上がるように「できること」の範囲を広げ、これまでともすれば失われがちだった HIV/エイズ対策の現場の NPO/NGO との信頼関係を再構築する動きでもあったのではないかとひそかに考えています。